令和３年度区民対話会～各地域の現状・課題～

あんしんケアセンター真砂

圏域

中瀬1丁目、ひび野1丁目、真砂、若葉

現状

〇独居・高齢世帯からの相談が増加しています。
（世帯別相談割合　独居高齢者　32.1％　高齢世帯37.2％　同居　24.4％　その他　2.7％　不明6.3％）
〇認知症、精神、知的障害など多問題を抱える世帯が増え、成年後見制度への繋ぎが必要な方が増えています。
（成年後見関連の相談　新規15名延べ対応回数226回／高齢者虐待（疑い含む）相談　新規7名延べ対応回数84回）
〇障害の制度や法的な問題に対して、あんしんケアセンターの職員やその他支援者のサポートが必要です。
〇ご近所同士の交流・見守りが希薄、困った時の相談・支援先を知らないことで問題が表面化しにくくなり、事態が悪化するケースもあります。
〇エレベーターのない低中層住宅がおよそ80棟あり、病気やけがをきっかけに居住する高齢者の閉じこもりや外出困難が問題となることが増えています。

※データは全てR4年1月末時点の数値となります。

課題

●地域の現状・問題点を住民の皆様に知って頂くこと。ご自分の地域の現状や今後の生活のリスクを知ることで、自らの介護予防や地域での見守りの必要性、共助の意識が高める必要があると考えております。それにより住民の方々の通報で支援が必要な高齢者が早期に発見され、住み慣れた地域で安心して暮らせるように適切な支援、介護サービス等に繋がることが期待できます。
●地域包括ケアシステムの推進に向けて、あんしんケアセンターは、介護予防講座の開催、介護予防活動団体への支援、生活支援コーディネーターとの連携により地域住民の方々、関係機関・団体とのネットワーク構築にこれからも取り組む必要があります。
●住民の皆様への在宅医療と介護や障害サービスなどを、様々な媒体で情報を発信して、より多くの方が情報をえられる環境づくり。
●8050問題、ヤングケアラー、引きこもりなど、複合的な問題を抱える世帯への相談や支援の為、多制度の支援者・関係団体との連携体制づくり。
●コロナ禍においての介護予防の普及啓発や相談、関係者の連携会議等は、ICT環境の有無などニーズを把握した上でオンラインも含めた方法で行う必要性があります。

令和３年度区民対話会～各地域の現状・課題～

あんしんケアセンター磯辺

圏域

磯辺、打瀬、高浜5～6丁目、豊砂、中瀬2丁目、浜田、ひび野2丁目、幕張西、美浜

現状

【高浜、磯辺】
一部を除き、低層マンションや戸建地区。ほぼ全域が住居専用地域のため、商店も少ない。戸建地区では高齢化が高く、町丁によってはほぼ50%になる。マンション地区では、エレベータがない低層マンションが多い。地域ルームを中心に自治会単位で介護予防に取り組んでいるところが多い。自治会によって支え合い活動も取り組まれている。
【打瀬】
オートロックの高層マンション群。ボランティアやサークルなどの社会参加の意識は比較的高い。コア（公民館）や地域交流センター、商店街の「絆」などを中心に地域活動が行われている。
【幕張西・浜田】
地域住民が共有して利用できる場所が公民館しかない。そのため、地域全体で連携をとりながら、活動できる場所がない。自治会単位での活動になり、活発なところと、そうでないところの差がある。

課題

いずれの地域も、移動の課題が大きい。核家族化も顕著なために移動に家族の協力を得にくい。
磯辺地区では、エレベータがない低層マンションが多く、地域内でバスなどもないため、通院や社会参加などの活動に影響が大きい。
打瀬地区では、マンション敷地外に出るまでに時間がかかり、オートロックのため、気軽な声かけや見守りがしにくい。
磯辺、打瀬地区については、小地域ごとの通いの場の拡充を検討したい。
住民の理解が得られるよう、働きかける。
高浜は、支え合いの機運が高まっている。住民主体で行えるようサポートする。
幕張西・浜田地区については、先に述べたように、介護予防や住民が主体的に活動できるための場所が少ない。このことは、住民自ら健康や福祉制度などの情報にアクセスする機会に影響があると考えている。
定量的に調査する方法を検討する。

令和３年度区民対話会～各地域の現状・課題～

あんしんケアセンター高洲

圏域

稲毛海岸、高洲、高浜１～４丁目・７丁目

現状

- 地域の殆どが団地となっており独居、高齢者世帯率が高い。若い世代の方が他地域に出ていく事で担い手不足が問題視されている。

- 入居、退去の件数が年間１００件以上もあることから孤立化がみられている。これらのことから他者とのコミュニケーションがとれず引きこもりが多く見られ、心身ともに状態悪化が生じ、気づかれないことから発見が遅くなっている。コロナ禍により通いの場所が減少し、この傾向は一層多くみられている。

- 団地においてエレベーターのない住宅も多く、外出、移動が困難となっている。

- 圏域内においてスーパーが２店舗急遽閉鎖し、買い物に困っている方が多くみられている。

課題

- キーパーソンが不在であったり遠方いうことで、１人のケースに対し支援に時間がかかっている。１月に新規ケースが５０件以上で、終結していないケースを合わせると１５０件以上のケースに関わっている。

- 認知症の方、後見制度の活用が必要な方が増えている中、コロナ禍により講演会等が開催出来ず、適した受診や制度利用に結びつけれない。
  相談件数はコロナ禍前より１．５倍程増えている。

- 予防の為介護申請の希望が増えているも、要支援者に対してのケアマネージャーが不足しておりサービス開始に時間がかかっていたり、あんしん職員が担当することで負担が生じている。
  透析患者の階段移動問題が増え、病院からの問い合わせも増えている。

- 買い物が出来ない状況において生活が困難。代替案（配達　配食）を出すも自宅に閉じこもることで心身の機能低下が生じている。

令和３年度区民対話会～各地域の現状・課題～

あんしんケアセンター幸町

圏域

幸町、新港

現状

　コロナ禍において、関係機関と直接会って情報の共有や連携を図ることに制限がかかり、地域の中も見えにくくなっているように感じています。地域の状況は総合相談から把握しています。相談件数の延べ数は令和元年1904件、令和2年度2083件と年々増加していましたが、令和3年度はコロナの影響で相談控えもあるのか、減少傾向です。
　幸町圏域では1丁目、2丁目共に住民主体の支え合いのサービスが行われています。特に1丁目では地域支え合い型支援事業として訪問、通所の両サービスを提供しています。住民同士の支え合いはコロナ禍でも感染に注意しながら状況に応じて、行われています。
　総合相談の中で増加傾向にあるケースは下記になります。
・受診控えによるものか、病状が重度化して発見される。
・認知症の進行で成年後見制度が必要な独居高齢者、高齢世帯。
・精神疾患や経済的問題が絡む複合的な相談。
・介護サービスへの不満や要望。
・団地の上下間の騒音問題。

課題

　コロナ等の感染症の拡大防止を考えながら、高齢者の支援体制をどのように整えていくかが大きな課題です。
・コロナ禍で閉じこもりになり、運動不足になっている高齢者が増えている。特に団地の高層階に住む方は、体が動かなくなって買い物に行くことが難しい等の相談がある。近隣にスーパーやコンビニはあっても、買いに行くことが難しくなってきている方が一定数いる。
・介護保険サービスの利用希望があっても、ヘルパー事業所やケアマネジャー事業所が不足し、新規の受け入れが難しい状況になっている。要支援認定の方だけでなく、要介護認定の方のサービス調整も難しい。
・幸町の中では地域住民の様々な取り組みがあるが、若い年代の方の協力がなければ今後人手不足になる可能性が高い。美浜区には社会資源が少ないと言われているが、医療・福祉関係の大学が多い。専門の先生方や専門家になるために学んでいる学生と地域包括ケアシステムの構築について検討ができる体制づくり。
・現あんしんケアセンター幸町は平成２４年から約１０年間、地域包括支援センターの業務を行ってきた。令和４年４月から事業の受託法人が変更になるので、今まで積み重ねてきた連携体制をどう継続していくかも課題の１つ。